

あいち農産物生産流通レポート

令和2年7月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 東京都中央卸売市場における2019年産の愛知県産農産物の動向 (東京事務所)	1
・ グロリオサの切り花における日持ち性及び開花率の改善 (農業総合試験場)	3
◎ 地域トピックス	
・ 豊田加茂地域の農産物を世界へ！～海外市場開拓の取り組み～ (豊田加茂農林水産事務所)	4
◎ フラワーページ	
・ 花の王国あいちサポート企業について (園芸農産課)	5
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	8
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	20

※今月、「東日本情報」、「西日本情報」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

東京都中央卸売市場における 2019 年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2019 年産（2019 年 1 月から 12 月まで）の東京都中央卸売市場（9 市場）での本県産農産物の総取扱額は 302 億円（シェア 4.9%）で、47 都道府県中第 6 位でした。

なお、本県産農産物の内訳は、野菜が 173 億円（前年対比 87.2%）、果実が 17 億円（前年対比 86.3%）、花きが 112 億円（前年対比 98.8%）となりました。

1 野菜の動向

東京都中央卸売市場での野菜の総取扱額は 3,564 億円で、暖冬による秋冬作の豊作が単価を極端に押し下げ、前年をかなり下回り（△8.3%、323 億円減）しました。

本県産について、キャベツは、暖冬による年明けからの潤沢な入荷により単価は低迷し、競合産地や新興産地が面積を増やす動きがある中、シーズンを通して安値基調となり、本県産の取扱額は前年を大幅に下回りました。

トマトは、1 月は入荷増で荷動きが悪く販売苦戦するも、4 月にかけては入荷が落ち着き単価は回復しました。しかし、その後は高温による着色不良がみられる等、販売環境の変化が激しい年となりました。

ブロッコリーは、前年秋の台風・長雨による根傷みが懸念されましたが、生育を停滞させるような寒波もなく、品薄感なく入荷が続き、単価を下げるも取扱額は前年をかなり上回りました。

本県産の他の品目も含めた野菜全体の取扱額は、キャベツの取扱額の大幅な減少が響き、前年をかなり下回りました（表 1）。

表 1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	2019 年	前年対比	順位(シェア)*	上位産地
野菜合計	17,344,028	87.2%	7位(4.9%)	①茨城、②千葉、③北海道
キャベツ	4,162,998	64.1%	1位(25.6%)	②群馬、③千葉
トマト	2,640,753	102.6%	3位(9.5%)	①熊本、②栃木
ミニトマト	2,607,467	105.5%	2位(17.5%)	①熊本、③北海道
おおば	2,597,621	95.2%	1位(83.1%)	②茨城、③大分
ブロッコリー	1,230,288	106.0%	3位(10.0%)	①香川、②北海道

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

2 果実の動向

東京都中央卸売市場での果実の総取扱額は 1,781 億円で、前年並（△1.1%、20 億円減）となりました。

本県産について、いちじくは、6 月の気温が低く推移したことから生育が遅れたことに加え、台風の影響等もあり入荷量が減少し、単価は前年を上回ったものの取扱額は前年を大幅に下回りました。

いちごは、前進出荷とその反動による成り疲れの影響で1～3月の入荷量が減少し、単価は前年を上回ったものの取扱額としては前年を大幅に下回りました。

また、かき類もひょう害等の天候の影響を受け、取扱額は前年を大幅に下回りました。

こうした動きの結果、本県産の他の品目も含めた果実全体の取扱額は、前年をかなり下回りました（表2）。

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	2019年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
果実合計	1,718,061	86.3%	17位(1.0%)	①栃木、②青森、③愛媛
みかん類	382,973	92.7%	8位(1.3%)	①愛媛、②静岡、③長崎
いちじく	458,765	85.3%	1位(51.6%)	②和歌山、③福岡
かき類	325,340	77.8%	6位(5.6%)	①和歌山、②奈良、③福岡
いちご類	294,161	74.3%	11位(0.9%)	①栃木、②福岡、③茨城
メロン類	45,166	96.2%	10位(0.5%)	①茨城、②静岡、③熊本

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

3 花きの動向

東京都中央卸売市場での花きの総取扱額は821億円で、前年をわずかに下回り（△2.2%、18億円減）ました。

本県産について、切り花は菊類で夏期が冷涼だったことにより、盆需要のものが開花前進するといった影響がみられました。その一方で、ばら類やカーネーション類などは入荷量を減らしたものの、単価は前年を上回りました。

鉢物については、鉢花が昨年の3位から2位へと一つ順位を上げたものの、全体では減少傾向となりました。

こうした動きの結果、本県産の花き全体の取扱額は前年並となりました（表3）。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	2019年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
花き合計	11,186,460	98.8%	1位(13.6%)	②千葉、③埼玉
切り花計	8,486,522	100.6%	1位(15.3%)	②千葉、③静岡
菊類	5,773,722	99.1%	1位(39.9%)	②沖縄、③茨城
ばら類	862,373	101.9%	1位(14.9%)	②静岡、③山形
カーネーション類	308,996	102.6%	3位(5.8%)	①長野、②千葉
観葉植物	1,141,408	96.5%	1位(35.3%)	②静岡、③鹿児島
鉢花	519,737	93.0%	2位(12.2%)	①埼玉、③千葉
らん鉢	405,431	90.5%	5位(9.3%)	①埼玉、②千葉、③山梨

* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

グロリオサの切り花における日持ち性及び開花率の改善

農業総合試験場

本県はグロリオサの全国有数の産地です。グロリオサは鮮やかな花色と特徴ある花形から海外での人気が高く、近年輸出量が増加しており、輸送における日持ち性が課題となっています。グロリオサの切り花は、通常1本に蕾が5個付き、1～2輪が開花・着色した段階で収穫します。蕾は順次開花しますが、花色が薄いものや、上位節で開花に至らない場合があります。そこで、日持ち性と花の発色及び開花率向上のために、収穫後の保管条件や糖を添加した水揚げ液の効果について検討しました。

1 保管時の温度・日数が観賞日数と開花率に及ぼす影響

収穫後一晩水揚げし、保管温度と保管日数を変えて管理した後、温度 25℃、湿度 60%、照度 1,000lx の環境下での観賞日数を調査しました。その結果、保管温度が低く、保管日数が短いほど観賞日数は長くなりました（図1）。なお、低温保管により観賞日数は長くなりますが、保管日数が長くなると蕾が変色し、特に顕著な第5花では5℃5日の場合に開花率が91%から36%に低下しました。

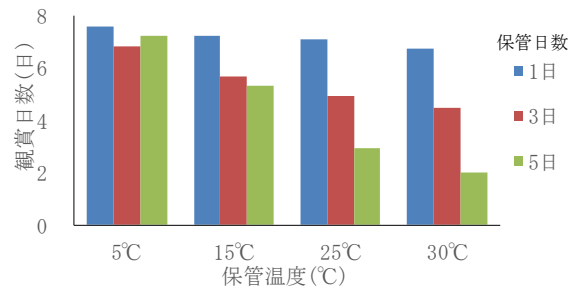


図1 保管温度・日数における観賞日数



低温保管で変色し未開花となった蕾

2 水揚げ時の糖添加による花色及び開花率の改善

収穫後に開花する花の発色不良と長期間の低温保管による第5花の開花率低下を改善するため、収穫後の水揚げ液（抗菌剤処理済み）に糖（スクロース6%）を添加しました。この結果、収穫後に開花した花色の改善効果が確認できました（図2）。また、第5花の開花率も向上しました（表1）。

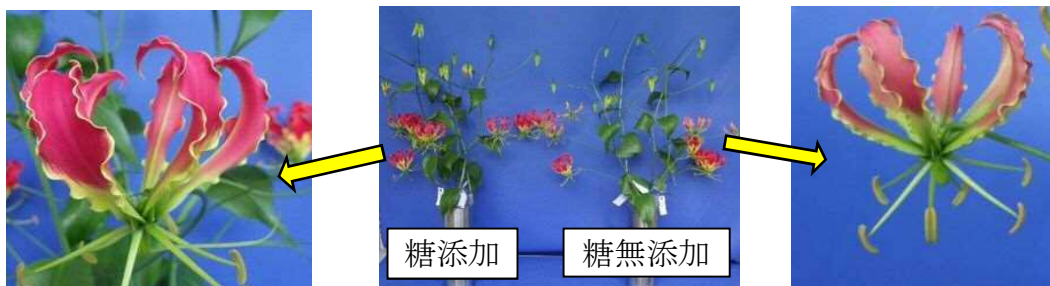


図2 糖添加による収穫後に開花する花の花色改善効果

収穫後一晩水揚げ、保管温度 25℃、保管日数 2 日後に撮影

3 おわりに

水揚げ時に糖と抗菌剤を添加し、保管日数を短く、蕾変色に配慮し低温保管することで切り花の品質向上が期待されます。

本研究は農林水産省「次世代国産花き産業確立推進事業」により実施しました。

表1 糖添加の有無と第5花開花率

保管温度 (°C)	保管日数 (日)	水揚げ液中の糖の有無	第5花開花率 (%)
5	1	有	100
5	1	無	83
5	3	有	33
5	3	無	0
25	1	有	100
25	1	無	75

豊田加茂地域の農産物を世界へ！～海外市場開拓の取り組み～

豊田加茂農林水産事務所

豊田加茂地域は、果樹栽培が広く行われており、特に梨、桃は県内最大の産地で10年以上前から輸出に取り組んでいます。また、古くから茶の栽培も盛んで、近年、若手園主たちが積極的に海外の販路拡大に挑んでいます。それぞれの生産者たちの輸出プロモーション活動をご紹介します。

1 輸出拡大に向けて

(1) 桃・梨・柿を香港・タイへ

JAあいち豊田は、豊田市産の桃、梨の香港・タイ向けの輸出を積極的に進めてきました。桃はゴールデンピーチ、梨は愛宕を主力として、現地での試食会や商談などを重ねています。今年度は、昨年タイで発令された青果物の選別・梱包施設に係る規制に対応し、梨の輸出量をさらに伸ばすと共に、みよし市産の柿についても販路を拡大していく予定です（図1）。

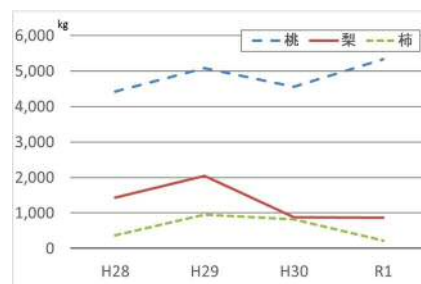


図1 JAあいち豊田の果実輸出実績

(2) 有機栽培を強みに茶をヨーロッパ・アメリカへ

いしかわ製茶は、農薬を使わない有機農法で栽培したオーガニックティを海外に向けてPRし、各国の有機認証を取得してイギリス、ドイツ、アメリカ始め様々な国へ輸出しています。また、若い後継者夫婦がブログを活用して茶園の様子や商品情報を英文で発信することにより、海外バイヤーへの売り込みも奏功しており、今後さらなる個人輸出の拡大を目指しています。



ラスベガスにて 抹茶のプロモーション

2 インバウンド対応の販売促進に向けて

(1) 中部国際空港で豊田産ブルーベリーをPR

中山間地域でブルーベリー農園を営む杉田組(ブルーベリーのこみち)は、セントレアの国際線制限エリアにある「Centrair OISHII Premium Selection ショップ」で、訪日客向けにPRしました。



(2) 外国人向けに伝統の茶文化、茶の魅力を伝える

高香園は、豊田市国際交流協会のボランティアグループが主催する外国人向けイベントで、お茶摘みや抹茶の石臼引きの体験、茶飯の試食などを行い、伝統の茶文化の魅力や茶のおいしさを伝える活動を続けています。



石臼引き体験

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、輸出先国の消費行動の変化、訪日客の激減、物流の停滞等、少なからず影響が出ています。しかし、生産者からは“この状況を将来的なチャンスと捉えている”という頼もしい声も聞かれました。

今後も、この地域の農産物のさらなる輸出拡大が期待されます。

花の王国あいちサポート企業について

園芸農産課

愛知県は、昭和 37 年から花の産出額が日本一を誇る「花の王国」です。平成 25 年度か花の王国あいち県民運動実行委員会（以下、実行委員会）を設立し、県民の皆様暮らしの中に花を取り入れていただくために「花いっぱい県民運動」を展開しています。

また、花いっぱい県民運動の趣旨に賛同し、愛知県産の花きを使った活動を実践していただける県内企業等を募集し、「花の王国あいちサポート企業（以下、サポート企業）」として認定しています。認定した企業は、活動内容を花の王国あいち公式ウェブサイトに掲載します。

1 今年度のサポート企業の募集について

(1) 募集期間

令和 2 年 6 月 19 日（金）から 9 月 18 日（金）まで

(2) 応募条件

次のいずれかの活動に取り組む企業等であること。

① 「今月のあいちの花」の展示や広報

愛知県では多くの種類の花きが生産されていることから、実行委員会が月替わりで「今月のあいちの花」を設定しています。企業の施設内において、「今月のあいちの花」の展示に取り組んでいただきます。

② フラワーウォークの実施

フラワーウォークとは、愛知県産の花きを用いた花束や鉢花を企業の従業員等が購入し、帰宅する際に花束等を持って歩き、家庭に飾っていただくことです。企業においてフラワーウォークを実施することで、花きに親しむ機会を作っていただきます。

③ 花のある暮らしの普及啓発、支援等の取組

企業が従業員や市民に対してフラワーアレンジメント講座や寄せ植え体験等を実施することで、花のある暮らしを PR していただきます。

④ 花壇整備、花の装飾の実施

企業敷地内の花壇や建物内のロビー等の共用スペースにおいて、花きを飾る取組を実施していただきます。

◇ 詳細は、以下の「花の王国あいち公式ウェブサイト」を参考にしてください。

<http://www.flower-kingdom.aichi.jp/>



2 サポート企業の取組事例について

(1) 名古屋トヨペット株式会社（平成 30 年度認定）

愛知県内に 68 店舗あるトヨタ自動車販売店です。各店舗で「今月のあいちの花」のアレンジメントを展示しており、展示の様子を自社 Facebook に掲載しています。このアレンジメントの展示は訪客から好評を得ており、あいちの花きの PR となっています。



店舗受付での「今月のあいちの花」の展示

(2) 株式会社ツアー・ステーション（令和元年度認定）

丹羽郡扶桑町の柏森駅付近にある旅行代理店です。ヨーロッパの一般家庭の花植えを参考に、15 年ほど前から店舗敷地内で花を展示しています。季節に合わせて鉢植えやプランターを設置し、訪客や駅利用者に花を楽しんでもらっています。



店舗敷地内の花植え

今後も実行委員会は、サポート企業の認定を進め、愛知県産の花きの PR と一層の需要拡大に取り組んでいきます。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
元年実績	1,157	243 (21%)	840	486	静岡(37%) 熊本(19%) 高知(12%)
2年見通し	1,000	—	840	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>静岡と愛知からの入荷が大半を占める。天候に恵まれ、両産地ともに生育順調で、玉伸びもよい。大玉傾向で、引き続き順調な入荷を見込む。価格は平年並で推移している。静岡では7月の新盆、愛知では8月の旧盆にピークを迎える。作付面積は全国的に減少傾向にある。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>お中元やお盆の需要がある。産地には消費者の嗜好に沿った大玉作りをお願いしたい。新型コロナウイルス感染症の影響で、メロン狩りがキャンセルになる産地もあり、作付面積の減少や栽培意欲の低下も見られるが、市場としては高値で販売できるよう努力していきたい。農協においては産地の情報提供をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
元年実績	2,089	633 (30%)	169	188	沖縄(23%) 静岡(20%) 神奈川(16%)
2年見通し	2,300	—	150	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年は6月の低温や干ばつ、7月の低温と日照不足の影響で、入荷の多い8月に大きく量を減らした結果、総入荷量は、少なかった平成30年をわずかに上回ったものの、平成29年を大幅に下回った。 本年も本県をはじめ沖縄、静岡、神奈川などからの入荷となる。5月まで沖縄中心の入荷であったが、5月に入り静岡、続いて本県も始まっている。4月中旬以降、緊急事態宣言中は単価が上昇基調となったものの、その後は下げに転じた。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>			<p>全体的に需要に対して供給が追いついていないため、期間を通して出荷量をもっと増やしてもらいたい。 愛知県産については品質に問題なく、これまでどおり、形や色を揃えるなど高品質の保持に努めて欲しい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	28,893	262	257	266	267	長野 27%
	28年	28,282	252	254	261	245	北海道 13%
	29年	29,911	213	216	215	208	兵庫 10%
	30年	29,212	242	215	246	265	愛知 8%
	元年	30,842	222	217	226	221	青森 8%
	5ヵ年平均	29,428	238	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	28,400	235	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野、北海道、愛知などから入荷する。産地の切り替わりで前半は数量減を見込む品目も見られるが、後半は概ね順調な入荷を見込む。今年は学校の夏休みが短縮され、夏に給食需要が高まるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							
だいこん	27年	1,442	117	126	133	107	青森 48%
	28年	1,349	121	147	133	101	北海道 37%
	29年	1,316	82	86	86	83	岐阜 13%
	30年	1,252	118	87	142	141	長野 1%
	元年	1,528	75	75	85	72	
	5ヵ年平均	1,377	102	104	115	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,350	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。青森は各地域出揃う。にんじんも始まり、だいこんの入荷が増量、減量する地域もあるが、極端な入荷増はない見込み。北海道は5月の低温でやや遅く、中旬以降の入荷となるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
にんじん	27年	1,554	147	117	124	199	青森 62%
	28年	1,484	165	127	169	200	北海道 33%
	29年	1,539	98	113	98	88	長崎 2%
	30年	1,514	157	130	176	161	兵庫 1%
	元年	1,772	119	110	122	124	千葉 1%
	5ヵ年平均	1,572	136	119	137	153	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,500	130	130	130	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。青森は上旬の出回りが遅く、平年より高値を見込むが、徐々に安定した入荷となる。北海道は下旬からの入荷を見込むが、出回りが遅いと予想より高値になる可能性もある。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	122,865	274	262	289	274	長野 16%
	28年	119,621	265	266	276	253	群馬 15%
	29年	125,225	226	233	227	218	茨城 11%
	30年	117,735	269	250	266	292	北海道 10%
	元年	120,302	243	233	252	243	青森 7%
	5ヵ年平均	121,150	255	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	119,000	260	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
4月の低温、5月の干ばつなどの影響で生育が遅れている品目が一部にあるものの、概ね回復し安定した入荷を見込む。果菜類は梅雨明け後に潤沢な出回りが予想される。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	27年	9,437	108	121	116	94	北海道 65%
	28年	8,283	119	149	122	96	青森 29%
	29年	8,891	76	83	71	74	岩手 2%
	30年	7,148	121	89	136	138	群馬 2%
	元年	8,790	76	77	79	70	千葉 1%
	5ヵ年平均	8,510	99	104	103	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	8,300	95	105	95	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森からの入荷が中心となる。北海道は産地により低温や干ばつ気味のため生育が緩慢だが、問題とならない程度。青森は5月下旬以降の少雨・乾燥等による影響が懸念される。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	27年	6,843	134	110	114	189	青森 46%
	28年	6,133	150	110	157	191	北海道 30%
	29年	6,562	100	112	99	89	千葉 20%
	30年	5,886	145	118	156	161	中国 2%
	元年	6,266	114	105	112	125	埼玉 1%
	5ヵ年平均	6,338	128	111	127	151	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,000	145	145	145	145	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道、千葉からの入荷がほとんどを占める。一部には低温や干ばつの影響による遅れがあるものの、生育は概ね順調。しかし肥大が悪くサイズが小ぶりで、量は少なめとなる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

6月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
はんぱい	27年	1,413	83	80	77	98	長野 100%	
	28年	1,673	53	54	59	56		
	29年	1,808	52	47	52	58		
	30年	1,616	77	66	68	105		
	元年	2,080	66	50	65	88		
	5ヵ年平均	1,718	65	58	64	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	1,800	65	65	65	65		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。産地の生育状況は順調で、安定した入荷を見込む。夏期の需要減にともない、厳しい販売状況が予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。産地の生育状況は順調で、安定した入荷を見込む。夏期の需要減にともない、厳しい販売状況が予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>							
	キヤベツ	27年	4,009	95	92	86	107	群馬 49% 長野 32% 茨城 11% 北海道 4% 秋田 1%
28年		4,136	77	75	82	80		
29年		4,486	64	68	61	66		
30年		3,821	102	91	87	130		
元年		3,899	76	73	75	81		
5ヵ年平均		4,070	82	79	78	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		3,900	80	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。群馬は前年の入荷がやや少なかったが、本年は生育順調。長野も生育順調で、入荷量は両産地ともに前年を上回るか。茨城はほぼ終了する。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。群馬は前年の入荷がやや少なかったが、本年は生育順調。長野も生育順調で、入荷量は両産地ともに前年を上回るか。茨城はほぼ終了する。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>								
ほうれんそう		27年	183	709	677	701	725	岐阜 86% 茨城 5% 長野 3% 愛知 3% 静岡 3%
	28年	182	701	714	748	673		
	29年	186	637	592	689	656		
	30年	161	725	655	744	841		
	元年	231	568	525	624	582		
	5ヵ年平均	189	661	626	696	686	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	180	600	600	600	600		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に入荷する。岐阜は生育順調で、入荷量は多かった前年並、単価は例年どおりの安値を見込む。少量ではあるが、長野、茨城、愛知などから安定的に入荷する。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
	<p>岐阜を中心に入荷する。岐阜は生育順調で、入荷量は多かった前年並、単価は例年どおりの安値を見込む。少量ではあるが、長野、茨城、愛知などから安定的に入荷する。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	27年	5,783	81	76	71	95	長野 85%
	28年	5,783	54	54	54	53	群馬 12%
	29年	6,679	55	50	53	60	茨城 1%
	30年	6,736	75	63	61	108	北海道 1%
	元年	7,566	66	51	64	86	
	5ヵ年平均	6,509	66	58	61	81	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,400	65	60	65	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。4月の低温や5月の干ばつで生育に遅れが見られたが、その後的高温や降雨により解消に向かう。大玉傾向に加え、群馬は作付が増えており、潤沢な出荷を見込む。入荷量は潤沢だった前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>							
キヤベツ	27年	15,612	91	89	82	99	群馬 65%
	28年	16,232	73	73	75	70	岩手 14%
	29年	16,597	59	68	57	54	長野 9%
	30年	15,476	102	85	84	137	茨城 6%
	元年	16,630	72	71	72	72	千葉 2%
	5ヵ年平均	16,109	79	77	74	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	17,000	80	85	80	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に岩手などから入荷する。群馬は適度な降雨もあり生育良好。先月下旬に出荷が始まった岩手は5月の低温、6月の干ばつから生育に遅れがある。下旬に向けて量を増やす。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>							
ほうれんそう	27年	990	660	589	717	698	群馬 31%
	28年	923	618	640	612	602	茨城 23%
	29年	958	565	459	643	626	栃木 23%
	30年	803	677	542	724	818	岩手 8%
	元年	976	547	482	622	537	岐阜 7%
	5ヵ年平均	930	611	542	662	651	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	960	570	550	600	560	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬など関東高冷地と岩手、岐阜からの入荷が中心となる。一部で5月の低温や干ばつによる生育遅延がみられるが概ね順調。群馬や茨城では高温により生育や株肥大が前進化する見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
<p>数量</p> <p>単価 円/Kg</p>							

名古屋市中央卸売市場

6月16日現在

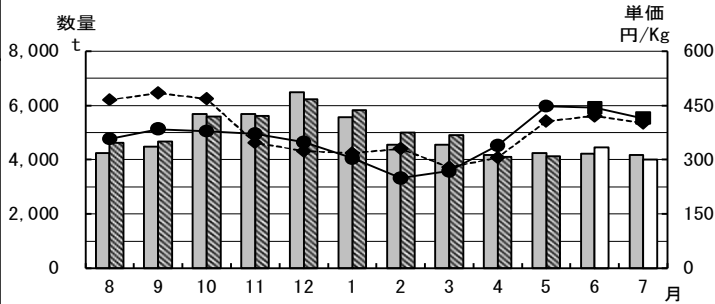
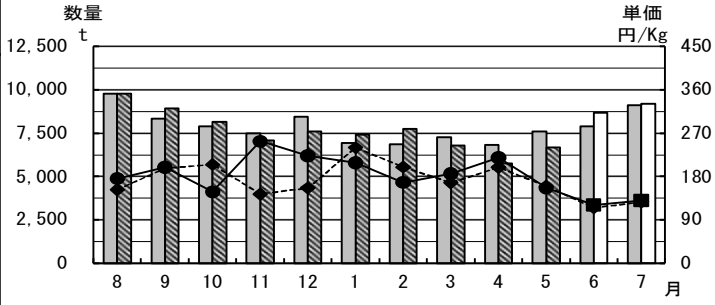
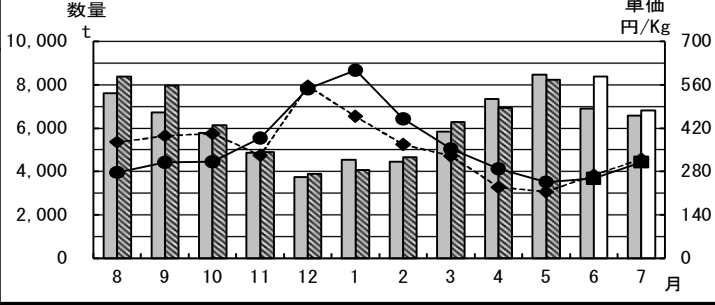
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格	卸売価格			前年主要産地 (%)	
				上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	651	464	466	493	468	大分	26%
	28年	589	463	470	517	451	愛知	18%
	29年	589	404	424	407	393	茨城	13%
	30年	524	461	433	503	450	静岡	10%
	元年	585	418	418	422	420	中国	6%
	5ヵ年平均	588	442	443	468	437	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	570	420	420	420	420		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>愛知、静岡、大分などから入荷する。越津ねぎが愛知から入荷する。前進傾向で、下旬から入荷減の見込み。今後は、白ねぎが北海道から入荷する。夏ねぎは静岡、大分から入荷し、7月末に終了する。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。</p>								
し	27年	2,409	189	159	200	221	長野	99%
	28年	2,384	134	139	146	133	愛知	1%
	29年	2,478	122	111	126	131		
	30年	2,687	156	122	137	211		
	元年	2,537	135	114	132	165		
	5ヵ年平均	2,499	147	129	148	173	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	2,400	135	135	135	135		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>長野からほぼ全量を入荷する。産地の生育状況は良好で、これからの天候次第となるが、安定した入荷を見込む。玉は大玉傾向が見られる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>								
きゅうり	27年	1,242	296	295	323	280	長野	54%
	28年	1,316	325	354	347	280	北海道	25%
	29年	1,434	269	257	282	268	愛知	6%
	30年	1,438	350	291	390	363	山形	2%
	元年	1,397	309	286	351	288	群馬	2%
	5ヵ年平均	1,365	310	296	339	297	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	1,390	305	305	305	305		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>長野、北海道を中心に愛知、東北産地などから入荷する。長野、北海道の入荷ピークは、梅雨明け後の中下旬となる見込み。愛知は例年より切り上がり早く、7月の入荷は少ないか。 入荷量と単価はともに前年並の見込み。</p>								

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	4,313	483	535	493	433	茨城 53%
	28年	4,263	450	477	504	384	千葉 15%
	29年	4,155	410	475	390	371	埼玉 5%
	30年	3,978	413	382	430	409	中国 5%
	元年	4,181	402	426	431	348	福岡 4%
	5ヵ年平均	4,178	432	460	450	389	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,000	415	420	415	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に千葉、埼玉などからの入荷となる。茨城では冬や春先の気温が高く、適度な降雨もあったため生育は前進傾向で出荷前倒しとなる。千葉は少雨から生育停滞もあるが概ね順調。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
							
しそ	27年	9,064	197	164	207	219	長野 84%
	28年	10,020	130	131	136	123	群馬 12%
	29年	9,867	110	97	114	119	岩手 2%
	30年	9,795	149	107	127	218	茨城 1%
	元年	9,123	127	102	120	163	千葉 1%
	5ヵ年平均	9,574	142	120	140	167	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,200	130	120	130	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に群馬等からの入荷となる。長野は、5月の干ばつも6月の適度な降雨により解消され、順調な出荷を見込む。群馬は低温の影響による玉の不揃い等は解消。下旬には落ち着いた出荷となる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
							
きゅうり	27年	7,343	268	250	291	264	福島 38%
	28年	6,835	324	366	355	262	岩手 12%
	29年	7,255	248	241	262	241	秋田 10%
	30年	7,448	355	312	441	323	群馬 7%
	元年	6,595	320	306	439	236	山形 7%
	5ヵ年平均	7,095	303	294	356	266	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,800	310	320	310	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手など東北産地に入荷が切り替わる。4～5月の低温による生育遅れは解消も、一部には5月以降の高温や少雨による生育遅延の懸念がある。上旬は出回り少ないが、中旬以降は増量し相場は軟調に。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

6月16日現在

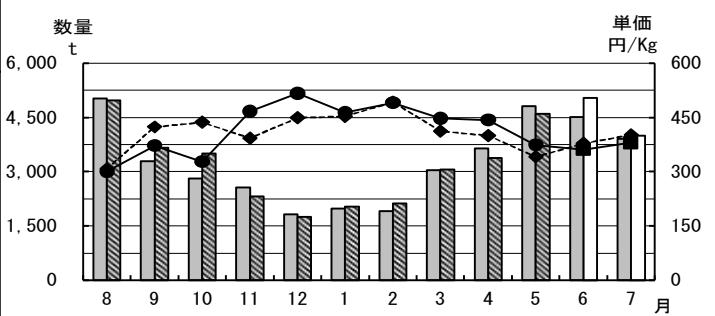
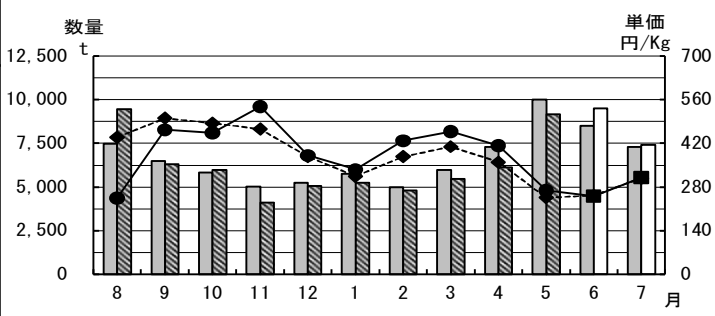
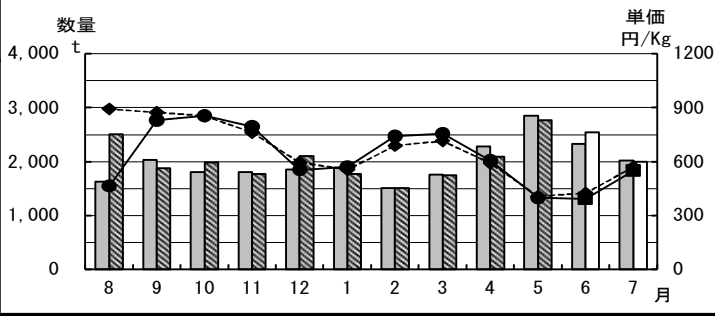
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	931	337	332	380	322	愛知 35%
	28年	889	318	315	320	321	宮崎 18%
	29年	961	264	270	252	275	山梨 16%
	30年	874	322	312	331	331	徳島 11%
	元年	922	329	289	365	354	熊本 5%
	5ヵ年平均	915	314	303	329	320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	920	305	305	305	305	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に徳島、山梨などから入荷する。長なすは愛知の西三河を中心に、長崎の残量が入荷する。愛知は上旬に終了する見通し。今後は、夏秋作が徳島、山梨から入荷し、平年並の入荷を見込む。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	27年	1,451	311	302	358	295	愛知 30%
	28年	1,308	335	330	349	333	岐阜 30%
	29年	1,602	261	254	255	272	北海道 18%
	30年	1,639	313	271	307	358	熊本 8%
	元年	1,505	290	258	299	314	三重 7%
	5ヵ年平均	1,501	301	281	311	314	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,500	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、岐阜、北海道を中心に入荷する。夏秋作に切り替わる。各産地ともに生育順調。入荷も順調で、中旬以降は増量する見通し。愛知は少なかった前年並の入荷量になると予想される。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	409	610	542	643	633	北海道 51%
	28年	384	701	623	786	715	愛知 24%
	29年	497	602	585	624	596	熊本 9%
	30年	409	720	655	712	789	茨城 9%
	元年	509	592	565	615	603	長野 4%
	5ヵ年平均	441	640	592	670	661	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	400	650	650	650	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に愛知、熊本などから入荷する。北海道は作付面積、戸数ともに昨年と同じ。5～10日の遅れがあり、まとまった数量は上中旬以降に入荷する見通し。熊本は上旬、愛知は中旬に終了する。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	4,474	369	422	439	297	群馬 28%
	28年	4,273	372	393	378	348	茨城 22%
	29年	5,077	288	314	280	273	栃木 20%
	30年	5,111	345	343	365	328	高知 5%
	元年	3,908	402	335	501	383	福岡 4%
	5ヵ年平均	4,569	352	360	386	323	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,000	380	375	395	370	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、栃木など関東産地からの入荷が中心となる。生育は概ね順調だが、低温や少雨、曇雨天の影響で一部では生育遅延がみられる。少ない出回りが続く中、梅雨明けに伴い増量する見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>東北、北海道からの入荷が本格化し、関東と併せて入荷の中心となる。関東の促成栽培は終盤。量を増やす北海道は順調な生育だが、東北は4月の低温で生育が遅延する産地が多く、回復は天候次第。 入荷量、価格とも前年並となる見込み。</p>							
ト マ ト	27年	8,934	297	306	345	268	北海道 17%
	28年	7,861	322	301	333	332	青森 15%
	29年	8,742	272	285	274	259	岩手 11%
	30年	8,158	333	303	339	356	栃木 11%
	元年	7,312	308	286	331	310	千葉 8%
	5ヵ年平均	8,201	306	296	324	303	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,400	310	320	310	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道などからの入荷となる。茨城は7月上旬～中旬をピークに見込む。4月の低温による生育遅れは5月以降の気温の上昇に伴い回復し、生育、開花ともに順調。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>茨城、北海道などからの入荷となる。茨城は7月上旬～中旬をピークに見込む。4月の低温による生育遅れは5月以降の気温の上昇に伴い回復し、生育、開花ともに順調。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	27年	1,823	558	506	601	577	茨城 23%
	28年	1,606	658	560	718	687	北海道 13%
	29年	1,952	554	533	574	557	青森 13%
	30年	1,769	674	643	646	731	福島 11%
	元年	2,019	570	537	576	593	愛知 9%
	5ヵ年平均	1,834	600	554	619	625	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	550	500	560	590	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道などからの入荷となる。茨城は7月上旬～中旬をピークに見込む。4月の低温による生育遅れは5月以降の気温の上昇に伴い回復し、生育、開花ともに順調。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>茨城、北海道などからの入荷となる。茨城は7月上旬～中旬をピークに見込む。4月の低温による生育遅れは5月以降の気温の上昇に伴い回復し、生育、開花ともに順調。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

6月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	446	446	388	481	492	茨城 28%
	28年	408	421	378	445	422	北海道 25%
	29年	430	356	351	370	368	宮崎 21%
	30年	311	515	481	507	523	高知 11%
	元年	459	437	402	432	449	岩手 4%
	5ヵ年平均	411	431	395	444	447	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	410	420	420	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に岩手、茨城、宮崎などから入荷する。北海道と岩手の夏秋作が中心となる。各産地ともに生育順調で、順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	27年	1,690	244	296	287	218	静岡 42%
	28年	1,403	188	214	204	182	北海道 28%
	29年	1,270	149	152	170	135	長崎 14%
	30年	1,685	80	67	84	91	愛知 5%
	元年	1,523	173	165	178	173	青森 5%
	5ヵ年平均	1,514	167	179	185	160	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,400	200	200	200	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、北海道を中心に入荷する。静岡は前進傾向。北海道は概ね順調で中旬からの入荷を見込む。北海道は作付面積が減少傾向で、加工向けが増加している。5月・6月は家庭需要があり高値で推移した。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
たまねぎ	27年	3,636	154	154	155	156	兵庫 63%
	28年	3,516	159	162	178	156	北海道 16%
	29年	4,088	85	90	88	81	愛知 9%
	30年	4,532	88	80	99	93	長崎 5%
	元年	4,739	81	81	84	79	富山 4%
	5ヵ年平均	4,102	110	109	117	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,100	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫を中心に北海道、愛知などから入荷する。兵庫の淡路島産は作柄良好で、L玉を中心に入荷する。北海道は生育良好で、後半からの入荷となる。愛知は前進傾向で、入荷量は平年より少ない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	1,900	412	345	461	445	茨城 56%
	28年	1,792	416	378	455	414	岩手 27%
	29年	1,968	358	356	340	377	福島 5%
	30年	1,789	492	500	485	491	宮崎 4%
	元年	1,880	459	396	488	504	青森 2%
	5ヵ年平均	1,866	426	394	444	445	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,800	460	480	460	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。主力の茨城は生育良好もピークは過ぎ減少する見込み。岩手は4月の低温による生育遅延はその後の高温に伴い解消し、増量を見込む。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
白菜	27年	5,627	229	264	243	182	茨城 35%
	28年	5,613	173	180	174	164	静岡 21%
	29年	5,506	136	152	138	117	千葉 18%
	30年	5,447	73	71	74	74	北海道 14%
	元年	5,068	173	166	180	174	長崎 8%
	5ヵ年平均	5,452	157	167	162	142	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,000	250	260	250	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城、静岡、千葉などからの入荷となる。茨城は前年並も、静岡や長崎は小玉傾向かつ前進化等により出荷終了が早まり、量を減らす。千葉は小玉に加え多雨による腐りがみられ、出荷量への影響を懸念。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
たまねぎ	27年	9,262	163	153	172	164	兵庫 36%
	28年	8,086	171	154	178	180	佐賀 36%
	29年	8,876	94	102	95	87	香川 10%
	30年	8,958	94	88	92	101	愛知 5%
	元年	9,336	87	84	86	92	栃木 4%
	5ヵ年平均	8,904	121	115	124	124	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,000	95	90	90	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>兵庫、佐賀、香川からの入荷が中心となる。暖冬に続き天候に恵まれて順調に生育し大玉傾向も、作付面積の減少に伴って出荷量の減少を見込む。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は安値基調だった前年をかなり上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

6月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	9,121	400	385	391	421	愛知 18%
	28年	8,411	430	405	424	461	フィリピン 14%
	29年	7,766	443	435	439	461	長野 9%
	30年	8,192	444	442	437	456	石川 8%
	元年	7,741	433	467	442	398	山梨 8%
	5ヵ年平均	8,246	429	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	7,600	450	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、もも、メロン、すいかなどを中心に入荷する。みかんは各産地が出揃うため、消費の動向次第で価格が厳しくなる見込み。ももは暖冬の影響で、入荷量は平年を下回ると予想される。入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。						
アールスメロン	27年	227	583	—	—	—	愛知 51%
	28年	197	668	—	—	—	静岡 37%
	29年	202	641	—	—	—	高知 9%
	30年	164	656	—	—	—	茨城 3%
	元年	160	629	—	—	—	
	5ヵ年平均	190	633	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	160	620	—	—	—		
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、静岡を中心に入荷する。各産地ともに生育は概ね順調。愛知は昨年並の入荷を見込む。中元ギフトの需要が見込まれるが、業務用の動向によっては厳しい環境が予想される。入荷量と価格はともに前年並の見込み。						
すいか	27年	2,767	140	120	123	182	愛知 26%
	28年	2,603	192	172	183	224	石川 23%
	29年	2,343	195	179	190	224	長野 20%
	30年	2,713	217	211	216	225	新潟 12%
	元年	2,664	168	197	163	149	山形 9%
	5ヵ年平均	2,618	182	175	174	200	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	2,550	180	210	190	180		
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、石川、長野などから入荷する。愛知の入荷量は前年をやや下回る見込み。長野は上旬、山形は下旬からの入荷となり、両県ともに入荷量は前年並の見通し。梅雨が長くなると予想され、販売が厳しいか。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	38,282	374	385	374	367	山形 15%
	28年	34,883	419	407	429	420	山梨 15%
	29年	32,851	467	467	461	473	千葉 10%
	30年	33,742	465	488	465	448	青森 8%
	元年	31,291	453	496	453	413	フィリピン 7%
	5ヵ年平均	34,210	436	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	31,300	460	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、もも、メロンなどを中心に入荷する。ももは産地によって状況が異なるも、総じて入荷は微減か。気温の上昇により夏果実の消費が期待されるほか、ギフト需要もあるため、果実全体の価格は維持される見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。						
アーメロン	27年	660	672	717	653	631	静岡 50%
	28年	582	740	777	780	649	茨城 13%
	29年	573	767	805	770	713	高知 11%
	30年	491	788	850	772	733	千葉 11%
	元年	521	742	830	762	620	山形 6%
	5ヵ年平均	565	742	796	747	669	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	520	740	810	740	670		
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、茨城、千葉を中心に入荷する。中心となる静岡は玉伸び、内容ともに良く前年並の入荷を見込む。千葉は上旬がピークでその後は徐々に減少傾向、茨城は旧盆需要向けの出荷で後半に向けて入荷増の見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。						
すいか	27年	14,842	154	140	143	170	山形 23%
	28年	12,509	194	176	192	206	千葉 20%
	29年	11,336	222	205	221	240	新潟 17%
	30年	12,458	231	249	235	215	神奈川 12%
	元年	10,875	170	202	161	155	茨城 8%
	5ヵ年平均	12,404	194	194	190	197	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	11,300	190	190	190	190		
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	上旬は鳥取産が潤沢に入荷し、下旬には遅れている山形がピークを迎える。千葉は昨年は天候不順で入荷が少なかったが、今年は回復する見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。						

切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 6月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	27年	2,088	39		
		28年	1,772	49		
		29年	1,781	38		
30年		1,377	44			
元年		2,005	35			
5ヶ年平均	1,805	41				
2年見通し	1,800	40				
概要	愛知、長野から入荷する。新盆需要の兼ね合いから出荷停止していた下位等級も出荷が始まる見込み。相場は例年並が予想される。					
小 ぎ	実績	27年	2,231	23		
		28年	1,739	31		
		29年	1,549	27		
30年		1,491	32			
元年		1,858	21			
5ヶ年平均	1,774	26				
2年見通し	1,600	35				
概要	愛知、埼玉、奈良、長野から入荷する。入荷数量自体に大きな山はなく、後半にかけて少しづつ増量する見込み。前半の新盆需要に期待。					
カー ネー ション	実績	27年	1,139	44		
		28年	1,060	42		
		29年	1,090	35		
30年		1,113	42			
元年		1,070	41			
5ヶ年平均	1,094	41				
2年見通し	1,060	40				
概要	長野、北海道中心の入荷となる。1週間程遅れていた物も徐々に追いつく見込み。輸入物の入荷が新型コロナウイルスの影響により不安定で、需要面でも新盆等に期待されるが、どのような影響が残るか不安。					
か すみ そ	実績	27年	139	89		
		28年	126	88		
		29年	120	80		
30年		100	107			
元年		129	85			
5ヶ年平均	123	89				
2年見通し	120	80				
概要	長野、福島からの入荷となる。上旬は据置株のピークとなるため、販売は苦戦しそう。中旬、下旬は落ち着いてくる。					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	27年	383	146	
		28年	325	156	
		29年	342	131	
		30年	293	148	
		元年	334	144	
	5ヶ年平均		335	145	
	2年見通し		320	140	
概要	<p>オリエンタルは新潟、北海道、岐阜から、LAは新潟、埼玉から入荷する。鉄砲は兵庫、長野から、中旬以降は愛媛から入荷する。ユリにとって季咲の時期となり入荷量は全般に多い見込み。</p>				
洋らん	実績	27年	392	92	
		28年	314	99	
		29年	296	92	
		30年	340	83	
		元年	333	92	
	5ヶ年平均		335	91	
	2年見通し		300	92	
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島等の国内産や輸入物などが入荷する。新型コロナウイルスの影響でエア便が麻痺しており、デンファレ等の輸入物の入荷は不安定で例年よりも少なめ。</p>				
ばら	実績	27年	770	50	
		28年	770	44	
		29年	707	42	
		30年	665	50	
		元年	665	45	
	5ヶ年平均		715	46	
	2年見通し		600	45	
概要	<p>愛知、岐阜、和歌山、長野を中心に入荷する。伊勢産は7月8日販売で一旦夏休みに入る。高冷地からの出荷が中旬より始まる。また、関東方面での新型コロナウイルスの感染拡大により、業務関係への影響が懸念される。</p>				
枝も	実績	27年	1,848	44	
		28年	1,610	46	
		29年	1,542	48	
		30年	1,423	47	
		元年	1,570	56	
	5ヶ年平均		1,599	48	
	2年見通し		1,500	53	
概要	<p>前半は七夕の笹、新盆の法月、蓮の花、葉などのお荷始まり、季節物がメインとなってくる。ドウダンなどは堅調な販売。中旬以降はヒオウギ、女郎花、花ナス、高冷地からはヒペリカム、リヤトリス、ルリ玉など、月末にかけては旧盆向けの商材が始まる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	27年	24,357	1,053	
		28年	21,512	1,136	
		29年	20,548	1,091	
		30年	21,592	1,078	
		元年	23,440	983	
	5か年平均		22,290	1,066	
	2年見通し		23,500	980	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付け内容の大きな変更はなく、6号MIXが主体となる。7号以上は赤・ピンク・白系が主力の色目となる。前月に続き、白の引き合いが強くなる見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(91.5%)、2位長崎(5.9%)、3位滋賀(1.7%)となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	27年	25,346	3,528	
		28年	23,506	3,435	
		29年	27,379	3,567	
		30年	27,245	3,082	
		元年	36,823	2,504	
	5か年平均		28,060	3,165	
	2年見通し		36,000	2,528	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。大輪に関しては、法人等で使われる高額ギフト需要が減り、販売単価も低下し、出荷は少ない見込み。ミディーに関しても、お中元需要が少なく、生産量が減っている。気温が高く開花スピードも速いため、6分咲き程度の固めでの出荷をお願いしたい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースで1位愛知(56.5%)、2位静岡(11.3%)、3位宮崎(6.2%)となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	27年	14,415	126	
		28年	11,294	116	
		29年	14,260	121	
		30年	11,825	79	
		元年	11,990	117	
	5か年平均		12,757	113	
	2年見通し		11,000	109	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。小鉢中心の入荷になるが、花持ちやムレなどの問題から販売も厳しく安価で推移する見込み。岐阜、愛知を中心に3～3.5号メインの入荷となる見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(49.3%)、2位岐阜(42.3%)、3位埼玉(5.8%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	27年	1,688	616	
		28年	1,837	940	
		29年	2,362	535	
		30年	1,446	633	
		元年	1,806	554	
	5か年平均		1,828	651	
	2年見通し		1,700	529	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。今年よりオンシジウムからの作付変更や高齢化に伴い、作付面積が減少したことが要因となる。市況は入荷減であるが、苦戦が予想される。また、温度上昇に伴い、花は固めでの出荷をお願いしたい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(57.0%)、2位高知(31.7%)、3位長崎(6.9%)となっている。</p>				
スパテイ	実績	27年	10,594	340	
		28年	5,201	417	
		29年	2,526	623	
		30年	4,823	381	
		元年	5,880	279	
	5か年平均		5,805	373	
	2年見通し		5,500	250	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。4号メインの取引となるため、平均単価は昨年よりも下がると思われる。6号の需要が少なくなり、7号以上の需要も年々減ってきている。ここ最近では平均気温が高く、7月の植物全体の需要が厳しくなっており、今年も引き続き厳しい状況になる見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(49.7%)、2位愛知(29.8%)、3位岐阜(20.5%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	27年	28,200	736	
		28年	22,419	669	
		29年	22,821	754	
		30年	19,351	797	
		元年	22,575	577	
	5か年平均		23,073	706	
	2年見通し		22,500	578	
概要	<p>入荷量は前年並か。原木の輸入原価が上がり、全体に輸入減少傾向にあるが、特に8号以上はその傾向が大きい。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(65.1%)、2位鹿児島(9.5%)、3位福岡(5.6%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.565
令和2年7月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434